

# 学校教育相談 全体計画

## 1 学校教育相談の意義

教育相談とは、単に非行対策、不登校児童への対応といった消極的な面だけでなく、積極的に全ての児童の人格のよりよい発達を目指すとともに、一人ひとりの児童にとって、充実した学校生活を保証し、自己実現を目指すものである。また、その児童の後ろには日々子育てに奮闘されている家族があり、家族の心を支えていくことも、大切な役割である。

## 2 学校教育相談の目的

### 全教職員で…

(1) 児童と教師、保護者と教師、児童相互の人間関係、信頼関係を構築する。

(2) 児童理解につとめ、思いを受け止めながら悩みや問題を解決する。

児童一人ひとりの内面を、把握・理解するとともに児童の思いを共感的に受け止め、悩みや問題を一緒になって解決する。

(3) 保護者の思いを共感的に受け止める。

悩みに傾聴し、必要に応じて一緒に解決しようとすることにより、安心して児童を学校に送り出せるように働きかける。

### 管理職・教育相談担当で…

(4) 学級経営を支援する。

悩みを聞いたり、関係機関と協力したりしながら、担任が学級経営を安心して行えるようにするための支援を行う。

## 3 学校教育相談の基礎

学校教育相談は、教育相談室の中で特定の方向（来談面接）によって定期的に実施する場合と日々様々な機会をとらえて必要に応じて随時行うチャンス面談があるが、児童に関してはチャンス面談の方が頻度が高い。そのため、日ごろから児童との間に教育相談がいつでも効果的に進められるような人間関係を作り、それに基づいて個々の児童を理解するための資料を収集する。

## 4 学校教育相談年間計画

### (1) 担任による日々の学級経営

担任は日々児童と接し、教育相談的時間を適宜設けて児童と触れあっている。これが最も児童にとって話しやすく、効果的な教育相談である。

### (2) 学校全体の教職員による児童との関わり

登校指導時、休み時間、給食、専科の授業や保健室など、担任以外の教職員が関わる場面での会話が、児童の本音を聞く機会である。

### (3) 校内全体での児童理解

全職員で共通理解しておいた方がよいと思われる事項について、情報交換を行う。

(児童理解タイム…学校全体で共通理解できるように、学級写真を1つのフォルダに入れて、児童を確認しながらできるようにする。

できるだけテーマを毎回絞って事例を発表し、対応や解決策についても話し合える会とする。)

\* さまざまな問題を担任だけでなく、教職員全体が当事者として考え、サポートし、解決に向けて力を合わせていこう！という会にしていく。

\* 児童理解タイムのテーマ例

(新年度になってのクラスの様子・保健室からみた児童の様子・最近の児童の様子・来年度へ向けての引き継ぎ等…)

#### (4) アンケートの実施

①ウィークリースマイルアンケート (週1回木曜日)

②マンスリーアンケート (月1回月末)

- ・アンケート実施後、悩みのある児童と面談を行う。(2学期は全員と面談)
- ・(目的) 児童理解を深め、一人ひとりの様子や人間関係について理解し、児童が気になることについて素早い対応ができる手立てとする。

#### (5) 相談室の保護者利用

- ・ 成長の過程で気になること、友人関係、人間関係、子育てに関する悩みなどを聴き、話し合う。(保護者からの申し込み、教員からの呼びかけ、『はつらつ川西っ子』による広報など) 保護者の気持ちを受け止め、少しでも気持ちが楽になるようにサポートする場にもしていく。

#### (6) 相談室の児童の利用

- ・ 必要に応じて、児童の悩みや心配事について話し合う教育相談を行う。

#### (7) SCの活用

- ・ 下関市教育委員会教育相談スーパーバイザー  
川中西小学校・・・月1回(年10回)

日頃から連絡を取りながら、アドバイスを受けることも可能。また、必要に応じて児童や保護者との面談を設定する。

(児童・保護者・担任との面談、情報交換、講演会の開催等)

\*保護者からの希望により、担当がSCと連絡をとる。

#### (8) お手紙ポスト

- ・ 手紙なら気持ちが伝えられる、ちょっとした思いを伝えたい、つながりを持ちたい、こっそり相談したい…という児童のために、お手紙ポストを設置する。(用紙はそばにおく。ポスト置き場は、相談室前と職員室前の2か所。)